

下部消化管内視鏡（大腸カメラ）の説明文書

【下部消化管内視鏡検査の目的】

下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）は大腸を観察し炎症、潰瘍、ポリープ、癌などの病気を診断することが目的です。

【検査方法】

- ① 消化管の動きをおさえる薬や苦痛を軽減するための鎮静剤の注射をします。
- ② 肛門にゼリーを塗り内視鏡（大腸カメラ）を挿入し大腸を観察します。
⇒必要に応じて、画像強調技術や医療用色素を使用した詳細な観察を行ったり、生検（組織を採取）を行います。
- ③ 当院では小さなポリープ（ ≤ 10 mm）のみ外来にて内視鏡治療を行っています。その他の大がかりな治療が必要な場合には、当院入院での治療、あるいは連携先の専門病院に紹介いたします。
- ④ 終了⇒検査時間は平均 20～30 分、鎮静剤の効果が消えるまでお休みいただいた後、お帰りいただきます。

【鎮静剤の使用について】

当院では内視鏡検査に伴う苦痛をよりいっそう軽減するために、希望により鎮静剤（注射）を使用することができます。ただし、鎮静剤使用後は、意識がもうろうとしたり、眠気をもよおす場合があります。自動車・バイク・自転車の運転は危険ですので、これらの乗り物での来院はお控えください。鎮静剤を使用しないで検査を受けることも可能です。

【検査の安全性・偶発症について】

日本内視鏡学会の集計（2004 年発表）では、0.012%（1 万人に 1.2 人）の頻度で何らかの偶発症（薬物アレルギー・アナフィラキシーショック・出血・裂傷・穿孔・持病の悪化など）が報告されています。また、0.00076%（100 万人に 7.6 人）の頻度で死亡例が報告されています。当院では死亡例はありません。なお、大腸ポリープ切除に伴う穿孔は 0.05%、ポリープ切除後の出血は 1%と報告されています。検査医は十分に安全に配慮して検査を行います。稀に発生する偶発症につき御理解ください。万が一、偶発症が発生した場合は緊急対応を行い、連携病院とともに最善を尽くします。なお、偶発症にかかる治療費は通常の保険診療になります。一定の自己負担が発生しますことを御了承ください。



有床診療所

はすいけクリニック

胃腸内科・緩和ケア内科・内科・放射線科・小児科

◎内視鏡検査を受ける方の注意事項◎

① 血液をさらさらにする薬を内服中の方

血液をさらさらにする薬を内服中の方は、検査前に主治医と内服の継続・中止についての指示を仰いでください。上部内視鏡検査のみの場合には、原則内服を継続して検査を行います。下部内視鏡検査の場合は、内服薬の種類により対応が異なりますので、注意してください。

② 糖尿病治療薬の内服あるいはインスリン治療中の方

糖尿病治療薬の内服あるいはインスリン治療中の方は当日の朝の内服／注射を中止してください。

③ 検査当日の車等の運転について

当日、検査を楽にするお薬を使用される場合は、自動車、バイク、自転車の運転ができませんので、徒歩あるいは公共交通機関のご利用をお願いします。

④ 検査後の食事や運動、仕事について

観察のみで異常がなかった場合には、特に制限はありません。ただし、検査時に“生検”あるいは“内視鏡治療”をした場合には、1週間は激しい運動やストレスのかかる仕事は控えてください。また、その場合には、アルコールや刺激物(香辛料、濃いコーヒーなど)の摂取も控えてください。

⑤ 検査後の結果について

約2週間後に生検の結果が出ます。当日は薬の影響で説明内容の記憶が曖昧になる場合があります。できるだけ、後日再診の上、説明を受けるようにしてください。



有床診療所

はすいけクリニック

胃腸内科・緩和ケア内科・内科・放射線科・小児科